



2015・9・21

第 216 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

安倍内閣の歴史的暴挙！全国に広がる怒りの声

歴史的な運動の広がりへの貢献

安倍内閣と自公与党は9月19日未明、戦争法案の採決・成立を強行しました。この歴史的暴挙に全国津々浦々から抗議の声があがっています。戦争法案に反対して繰り広げられたこの間の運動は、戦後の日本の歴史のなかでも例をみない広がりや規模をもつものとなり、同法の廃止をめざす今後の運動の展望を開くものです。

全国の九条の会はこの中で、国会行動の成功や、それぞれの地域・分野における運動を草の根からの盛り上げに少なからず貢献しました。それは立場の違いを超え、広範な共同を実現することにも役立ちました。これらの取り組みのなかで、休眠状態にあった地域、分野の会が活動を再開したり、新たに九条の会を発足させたとの報告も数多くよせられています。

11月13日に「九条の会講演会」

九条の会は、11月13日（金）午後6時30分から、東京千代田区の日本教育会館で

講演会を開きます。この間の運動を振り返りつつ今後を展望するとともに、7月に亡くなられた鶴見俊輔さんの「志を継ぐ」会にします。お話は大江健三郎さん、澤地久枝さん他の予定です。詳細は続報。

特別委強行の直後から抗議行動

「やがて納得する」など絶対ない

【宮城県 みやぎ憲法9条の会】 宮城県内の九条の会連絡会は9月14日から連日、仙台市内で戦争法案反対を訴える街頭宣伝を行ってきました。

17日には、戦争法案が参院特別委員会で強行された直後の午後6時から、抗議の集会・デモを実施、激しい雨の中900人超が参加しました。集会では、みやぎ9条の会の後藤東陽さんと仙台弁護士会の十河弘弁護士が廃案までたたかい抜く決意を語りました。

5人がリレートークを行い、SEALDs TOHOKUの学生は、「法案が通ってしま

えば、国民がやがて納得するなんてぜったいにありえない。民主主義を守るためには、私たちが努力しなければならないことに全国の若者は気づきました。これからも何があっても声をあげつづけます」と決意を語りました。

「傍観者になりたくない」の思いで

【福岡県 九条の会福岡県連絡会】 福岡県連絡会は17日夜、戦争法案の委員会強行採決に抗議する緊急行動を福岡市で行いました。繁華街天神をデモ行進しましたが、当初約700人の参加者が、デモ終了時には約1000人にふくれあがりました。

参加した福岡市の主婦・阿部利佳さん(40)は、「傍観者になりたくないとの思いで、4歳の娘を連れて参加しました。強行採決の瞬間をテレビで見っていました。安倍政権による暴挙が国民の目の前でされたことに怒りを覚えます。子どもの将来のことを考えると不安でなりません」と語りました。

「賛成した議員は選挙で落選させよう」

【大阪府寝屋川市 市内九条の会】 寝屋川市では17日、市内の九条の会などが、雨のなか市内3ヵ所で緊急大宣伝を行い、200人以上が参加しました。寝屋川市駅前では、「戦争法案NO」のプラカードを掲げ、買い物客や帰宅する人々にビラを配布し、署名を訴えました。

リレートークでは、寝屋川西南九条の会代表の荒敏夫さん(80)が『療原の火と燃え盛る民主主義』のたたかいはこれからです。賛成した議員は選挙で落選させましょう」と呼びかけました。

参加者らは、「9条を守ろう」「子どもを守

ろう、命を守ろう」とコールしました。

「田舎でも抗議の声」とテレビが紹介

【岐阜県羽島市 はしま・九条の会】 羽島市で17日、「戦争法案強行を認めない抗議リレートーク」が土砂降りの雨のなかで行われ、30人が参加しました。

はしま・九条の会の柴田高明事務局長は、「参議院委員会の強行採決に全国で怒りの声があがっている。連帯して法案廃案に向け最後まで声をあげよう」とあいさつ。

美術家の飯田幸子さんは、「ラジオを聞いて本当に腹が立った。父親からは戦争はだちかんぞ(だめだぞ)、一人になっても反対しろって言われてきた。美術も自由と平和があって成り立つ。暴挙を許さない声をもっとあげていこう」と発言。主婦の中山洋子さんは、「解釈改憲と国民の理解は関係ないとする安倍政権は二重の憲法違反だ。こんな首相を許してはしない」と語りました。

地元テレビが「田舎でも抗議の声」と生中継しました。

論戦、運動が地方議会を変えた

国会論戦の進展と、これと結びついた院外の反対運動によって、日をおって高まった今回の戦争法案反対の国民世論。それは戦争法案に関する地方議会の意見書採択にも反映しました。

3月議会で戦争法案の撤回を求める意見書を否決した**秋田県羽後町議会**が、6月議会では一転して採択したことは、先に紹介しました(「ニュース」214号)。同様の動きがその後もつづきました。

新潟県阿賀野市議会は、6月議会では同法の制定中止を求める請願が可否同数とな

り議長の反対で否決されましたが、9月議会では、同議長が「参議院の審議には失望を禁じえない」と賛成に転じ、意見書が可決されました。

兵庫県丹波市議会は、9月議会で、「法案は従来の安全保障に係る法制度及び自衛隊の海外活動のあり方を大きく変更する」と、戦争法案の慎重審議を求める意見書を賛成13、反対6で可決しました。これには2人の公明党市議も賛成しました。

同市議会は昨年9月、集団的自衛権行使に反対する請願を否決、今年6月にも法案撤回を求める意見書を否決してきました。

島根県大田市議会では8月の総務委員会では4対2で否決されましたが、9月の本会議では11対8で採択されました。賛成した自民地党員の保守系議員は、「国会中継を見てもかみあった政府答弁になっておらずアリバイづくりのような審議だ」、「このままでは来年の参議院選が危ない」と語っています。

500人がスタンディング

【福岡県大牟田市 九条の会・おおむた】戦争法案の委員会採決をめぐって緊迫した16日夜、九条の会・おおむたなどが呼びかけたスタンディングが約500人の参加で行われました。「強行採決ゼッタイ反対」「アベ政治を許さない」などのプラカードを掲げて国道沿いに並び、行きかう車列に戦争法案反対を訴えました。

行動に先立つ集会では、大牟田正山町教会の梅崎従之進さん(22)が、「国会前の抗議行動を知り、このままではいけないと思った。今の平和な日本を守っていきたい」

と意見表明しました。

「9条守れ」と100カ所余で「鐘」

【福岡県 福岡市内九条の会】福岡市では、憲法9条にちなんで9月9日午前9時9分に「平和の鐘」を鳴らす取り組みが今年も行われ、100カ所以上の寺院で、「憲法を守り戦争法案を廃案に」と訴えました。

福岡市城南区の油山観音では時間に合わせ、九条の会会員が鐘をつきました。その後、5つの地域九条の会員らが、市内の2寺院や街頭宣伝の活動から合流しました。参加者は40人にふくれあがり、憲法を1条ずつ読んで学習し、持ち寄った団子汁やおにぎりを食べ交流、平和への思いを語りあいました。

南区九条の会の黒澤節男事務局長は、「戦争法案強行採決阻止に世論を盛りあげよう」と訴えました。

この日は朝倉市や筑前町でも朝倉9条の会や仏教者らのよびかけで、15の寺院で「平和の鐘」が鳴らされました。

「戦争法阻止の一点で」共同を

【宮城県多賀城市 「市民の会」】多賀城市では9月9日付朝刊各紙に、120人の個人と2団体連名で、「憲法違反の安保関連法案(戦争法)阻止する一点で『手』をつなぎましょう！」と訴えるビラ1万7千枚折り込まれました。

戦争法案の衆議院強行後、市内に住む九条会会員や医師ら24人が呼びかけ人となって「ストップ! 安保関連法案(戦争法)・多賀城市民の会」を結成、市民160人の賛同を得てビラ作成に取り組んできました。